

希望学・釜石調査の概要

東京大学社会科学研究所

中村尚史

希望学・釜石調査のねらい

- 希望学にとっての地域調査の意味
- なぜ釜石か？
 1. 釜石の歴史
 - ・「鉄のまち」としての長い歴史
 - ・産業集積の形成・崩壊・再生
 2. 地理的な特性

調査の課題と方法

■ 調査の課題

1. 中核企業体の長期的な減量経営と社会諸階層における希望の変化との関係を解明する。
2. ポスト企業城下町における新たな希望の萌芽をさぐる。

■ 調査研究の方法

多様な研究分野と方法を動員した総合地域調査

研究組織

- 新日鐵釜石製鉄所調査班
OB聞き取り調査／技能伝承調査／史料調査
- 歴史文化研究班
- 社会調査班
高校同窓会調査／法意識調査
- 地域振興政策調査班
地域企業調査／漁業経済調査／行政と市民調査／
環境政策調査／スポーツ振興政策調査
- 地方政治調査班

調査の経緯

- 準備研究会

2006年4～9月 計5回

- 現地調査

2006年7月17～20日 第一次調査(15名)

2006年9月24～30日 第二次調査(32名)

※11月以降、現在に至るまで追加調査が進行中

- 中間報告研究会

2006年10月～2007年1月 計5回

調査の成果1

- 地域社会と企業社会の依存と反発
 1. 企業合理化の過程における強い緊張関係
 2. 雇用確保をめぐる協力関係

- 社会・経済状況の変化に応じた希望の再編
雇用確保をめざした企業誘致の成功と問題点

調査の成果2

- 希望の基盤としてのネットワーク形成
中核企業を軸に社会関係を構築してきた地域における新たなネットワークの模索
- 地域内外での企業間のネットワークの重要性
- 市民団体および市民相互間のネットワークの重要性

調査の成果3

- 地域社会における希望の共有
ポスト企業城下町におけるローカル・アイデンティティの模索
- ・ 都市イメージの分裂がもたらす問題
→どうしたらその方向性を統合できるか
- ・ 地域の伝統の再発見と地方の希望の再生

新たな問い

- 地域再生にむけての3つの問題提起
 - 1. ネットワーク形成に欠かせないものは何か
 - 2. 地域における希望の共有には何が必要か
 - 3. 歴史・文化、産業、環境をつなげ、希望の再生に寄与しうるものは何か